



# こうべ子どもにこにこ会ニュース

## 巻頭言 ～将来の多様な選択肢につなげるために～

兵庫県立大学環境人間学部教員 乾 美紀

私が、こうべ子どもにこにこ会と事務所を共有する「多文化共生センターひょうご」に関わってから15年以上が経ちます。2002年に多国籍の子どもたちが集まる「多文化保育園」で週一回、ボランティアとして活動を始めました。その後、多文化保育園は閉園となりましたが、当時の子どもたちはもう高校入学を迎えたりその後の進路を築き上げたりしていることでしょう。

一般に外国人の子どもたちの進路は、中学もしくは高校卒業で閉ざされることが多いのが現実です。特に高校への進学は低迷しており、日本人生徒との間には大きな格差が見られます。子どもたちが継続して教育を受けることは、自分が持つ知識やスキルを高めることになり、将来就きたい仕事の選択肢を広げることにも役立ちます。日本語と母語を話せるというメリットを持つ人材は地域でも活躍する大切な存在になります。従って、子どもたちには高校に進学し、高校卒業後も学習を継続してほしいのですが、多様な困難が立ちまわっています。

にこにこ会でも、高校受験を控えた中学生が勉強や進学の悩みを打ち明けてきます。高校には行きたいけれど、壁があまりにも高すぎて乗り越えることができるかが不安なのです。では、彼らはどのような問題を抱えているのでしょうか。

第一に、学力の問題が挙げられます。たとえ就学前や小学校低学年の時に日本に来ていても、日本語が難しいという問題は簡単に消えていきません。話し言葉である「日常言語」には問題がないのですが、教科書等に出てくる「学習言語」を習得するには5～7年かかると言われています。にこにこ会に来る子どもは、家では母語を話すことが多いですし、親が勉強を見るのが難しいというハンディがあります。

第二に、入試システムの理解が難しいことです。

高校の種類、私立と公立の区別などのほか、内申点、複数志願制などは、日本人にさえすぐに理解できる用語ではありません。子どもの学力や希望に応じて、慎重に進路の相談に乗ったり、保護者にも細かく制度を説明したりすることで、家族を巻き込んだ支援を継続することが必要です。

第三に、経済的な問題です。公立高校に合格が叶わず私立に行くことになった場合は、学費の問題が立ちまわります。家計が厳しい場合は学費を払えず、学校を辞めざるを得ないこともあります。昨年度、にこにこ会を卒業した生徒は奨学金を得たおかげで、私立に進学しても学業に専念することができています。

以上のような様々な問題を乗り越え、子どもたちが高校に入学するためのスタートラインに立つことが重要だと思います。一般的に親の希望は、子どもを経済的に負担が少ない公立に通わせることです。兵庫県では外国人生徒のための入学特別枠が2015年にできました。にこにこ会の生徒もこの制度を利用し、高校への入学を果たしてきました。ただし県内で3校（各校3名、合計9名）の受け入れ、来日3年以内の生徒、という限られた条件がありますので、高校に入学したいと願う子どもたちに行き届いていないことが問題だと捉えています。

にこにこ会を卒業した生徒が高校の様子や大学への進学、将来の夢をキラキラとした表情で語るのを見ると、幸せな気持ちになります。特別枠の拡大は必要ですし、経済的な支援も整えていかなければなりません。今後も外国にルーツを持つ子どもたちが希望通りに進学し、自分のメリットを生かしながら日本で活躍することを願ってやみません。彼らが持つ多様性と国際性が、将来地域の大きな力になると思います。



# 小学校 J S L 教室ニュース

小学校内日本語教室は、今年度から名称が変わり、「小学校 JSL 教室」となりました。小学校 JSL 教室は神戸市内に 7 校あり、にこにこ会所属の日本語教師は、本庄小学校(2012 年度開講)と東灘小学校(2013 年度開講)の 2 校で活動しています。

開講から7年目を迎え、学習支援体制もだいぶ固まってきました。週 1 回年間 30 回の支援の流れは以下の通りです。

開講時 「外国人児童生徒のための JSL 対話型アセスメント DLA」(以下、DLA) 実施  
児童の日本語力確認、学習支援方針検討



学級担任と懇談

学級での様子を伺いながら、学習支援方針を固める(教科学習支援の可能性も探る)



学級担任や放課後教室と連携(引き継ぎ書での情報交換)を取りながら学習支援を行う



翌 2 月末 学習発表会

1 年間の学習の集大成を発表。

神戸市教育委員会指導主事、学校の先生(校長先生、教頭先生、学級担任)、  
保護者、放課後教室ボランティア指導者などをお招きして。



終講時 学級担任と懇談

1 年間の学習支援の報告、今後の課題について話し合う。

小学校 JSL 教室間の交流や他市からの視察などもあり、活動も活気づいてきました。ここまで進んでこられたのは、学校の先生方や放課後教室、母語教室のご理解や協力体制があつてのことと大変感謝しております。今後もよりよい学習支援ができるよう、日本語教師一同、一層の研鑽を積んでいく所存です。そこで、今年度、研鑽の場として発足させたのが、「**こうべ校内 JSL 研究会**」です。

日本語を「生きる力」に！

- ・日本語教師による小学校 JSL 教室での学習支援
- ・現場の経験を多文化共生への理解につなげる
- ・子どもの「学び」を「日本語での対話」によって育てる
- ・常に「子どもたちから学ぶ」教師を目指す

この指針を基に、まずは内部研修で日々の活動の見直しをし、いずれはそれを外部発信できるようになれば、と静かに意欲を燃やしています。この夏は以下 2 回の研究会を実施しました。

## 第1回研究会(7月)DLA 実施方法及び評価方法のブラッシュアップ

(東京外国語大学多言語・多文化教育研究センターの  
「DLA 実践普及活動プログラム」事業)

## 第2回研究会(8月)教材研究(児童の支援段階に合わせた教材リスト作成が目標)

児童の「わかった!できた!」の笑顔を思い浮かべながら、これまで通り、一步一步進んでいきたいと思っています。

(小学校JSL教室 コーディネーター 辻村文子)



## 活動レポート



### 放課後日本語・教科学習支援教室の取り組み

毎週木曜日と土曜日の夕方に実施している学習教室の他にも、8月の第一週には午前中に夏休み宿題教室を開催しています。自由研究や読書感想文など、家庭で子どもたちだけで取り組むのが難しい宿題なども、ボランティアの先生たちと一緒にアドバイスをもらいながら一所懸命に取り組んでいます。

12月には、毎年恒例となった地域のお祭り「多文化フェスティバル深江」にキッズカフェを出店して参加する予定です。子どもたちが店員として、保護者の手作りのお菓子や飲み物をお客様にふるまうカフェです。様々な国のお菓子を紹介したり地域の人たちと触れ合える貴重な経験となります。





# 掲示板



◎ 会員になって私たちの活動を支えてください。 ◎

\*正会員【年会費 5000円】 個人  
総会での議決権がある会員です。

\*サポーター会員【年会費 1口1000円】  
個人1口以上・法人10口以上  
経済的な支援を頂く賛助会員です。

※寄付も大歓迎です♪

郵便振替 00900-4-251298  
こうべ子どもにこにこ会  
(同封の振込用紙をご利用ください)

## ★会員の皆さま、ご寄付くださった皆さま、ご支援ありがとうございます！！

皆さまのご支援により、にこにこ会の活動は成り立っています。

今後ともご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

なお、備品、絵本等も有志の皆さんからいただいています。厚く御礼申し上げます。

<正会員・サポーター会員の皆様> (順不同・敬称略)

延原臣二 北村広美 大岡栄美 乾美紀 酒井滋子 武田文 松田陽子 鈴木庸子  
橘直人 中畠孝幸 山口一史 田中康夫 横山文夫 江波戸美恵子 前原ゆき子  
松尾真理子 長谷佳信

## ★2018年度に助成・ご協力いただいた団体 ありがとうございます！！

(公財)兵庫県国際交流協会、

ひょうごボランティア基金、(公財)コープともしびボランティア振興財団、

関西日英協会、しみん基金・KOBE

## ◎ ☆日本語・教科支援ボランティア募集 ◎

それぞれの子どもの学習能力やニーズに対応し、主に日本語(国語)・数学(算数)・英語の学習を1対1でサポートしています。原則として日本語でサポートを行いますので、外国語能力・経験等は不問です。やる気のある方歓迎です。

☆活動時間：木・土 16:00~18:00 ☆活動場所：本庄地域福祉センター

※ボランティア オリエンテーション(要予約)に参加してみませんか？

オリエンテーション担当 松下 までお気軽にお問い合わせください。

問合せ先：078-453-7440

Email: kobekodomo\_nikonikokai@yahoo.co.jp



こうべ子どもにこにこ会

〒658-0022 神戸市東灘区深江南町4-12-20-201

TEL・FAX 078-453-7440

Email kobekodomo\_nikonikokai@yahoo.co.jp

URL <http://nikoniko.qee.jp/> (☛「こうべ子どもにこにこ会」で検索！)

